



社会福祉法人 ともの家

2025（令和7）年度 事業報告



2026.02.16 今月のメディアサイト特集

「早く受け入れて良かった！」カンボジアの特定技能生を迎えた愛媛県松山市の施設『社会福祉法人 ともの家』現場の声

カンボジア人女性2名が
愛媛県松山市『社会福祉法人 ともの家』に
早く受け入れて良かった！
やって来た!!

カンボジア特定技能生を迎えた施設の
“現場の声”




講演会

ユニバーサル・ホスピスマインド

～誰もが幸せになれるまちを目指して～



小澤 竹俊 氏

1963 年東京生まれ。救命救急センター、農村医療に従事した後、1994 年より横浜総合病院 内科・ホスピス勤務。1996 年にはホスピス病棟長となる。2006 年めぐみ在宅クリニックを開設、院長として現在に至る。2000 年より学校を中心とした「いのちの授業」を展開。一般向けの講演も行い、「ホスピスマインドの伝道師」として精力的な活動を続けてきた。2013 年より、人生の最終段階に対応できる人材育成プロジェクトを開始し、多死時代にむけた人材育成に取り組み、2015 年有志とともに一般社団法人エンドオブライフ・ケア協会を設立し、理事に就任。現在に至る。

令和 8 年
1月17日 土 14:00～16:00
(開場 13:30)

COMS 男女共同参画推進センター
5 階大会議室及び第 5 会議室 **参加無料**

定員 140 名

■お申込み方法
QRコードより必要事項を入力後に送信してください。
同じ団体から複数に参加の場合は、お一人の方が代表して参加予定の方全員の申し込みを頂くことができます。(複数名お申込みの方法は、フォーム内に記載しております)
※定員になり次第お申込みを締め切らせていただきます。予めご了承くださいませ。

■懇親会について
講演終了後、松山市駅周辺での懇親会を予定しております。同じくQRコードよりお申込み下さい。

主催 社会福祉法人 ともの家
エンドオブライフ・ケア愛媛
協賛 ともの家松山支部

講演会事務局 社会福祉法人 ともの家
089-904-5998 法人本部事務長 川崎
toshinori_kawasaki@tomonaka.com



社会福祉法人 ともの家

I 特筆事項

2025(令和7)年度は、物価高に苦しんだ1年であった。

食料品はもちろん、洗剤などの日用品、光熱費にいたるまで、多くのものが値上げされ、収入は伸びずに支出だけが増えていく状況に、大きな危機感を覚えた。特にダメージとして大きいのは建築費の高騰であり、築20年を超える事業所もあるため、至る所で修繕が必要となってきているが、この費用が法人全体に重くのしかかっている。

そのような中で、令和8年に臨時の報酬改定が行われたことはたいへんありがたいことである。が、今回の報酬改定は職員人件費に充てる介護職員等処遇改善加算の改定だけなので、物価高への効果はない。さらに、アメリカの軍事作戦に端を発した原油価格の高騰およびナフサショック。じわりじわりと効いており、ビニール手袋やごみ袋などの発注・納品が困難となってきている。政府には引き続き物価高対策や必要物資の安定供給を期待するとともに、企業努力による費用抑制・節約にも努めていかなければならない。

さて、慢性的な人手不足に苦しむ介護業界であるが、当法人の2025(令和7)年度の離職率は極めて低い水準で、人手に困る状況はほとんどなかった。業界でも高水準な給与等の待遇が一因であろうと考えている。課題は、職員の高齢化であり、若手の採用が困難であるという状況は変わっていない。カンボジア介護人材の2名は、勉強熱心でよく働き、勤怠も安定しているため、職場にとってはなくてはならない存在となっている。2027(令和8)年度も、新たに2名の採用が決まっているので、引き続き生活支援や育成に向けた支援体制を充実させていきたい。

最後に、経営状況についてだが、変わらず堅調を維持している。ただ、先述したように、物価や人件費はこれからも増大していく中で、今後の業界の先行きは決して楽観視できない。持続可能な法人運営のためにも、経営の効率化を推進し、さらなる財務基盤の強化を図っていきたい。

以下に、2025(令和7)年度の事業概要を報告する。

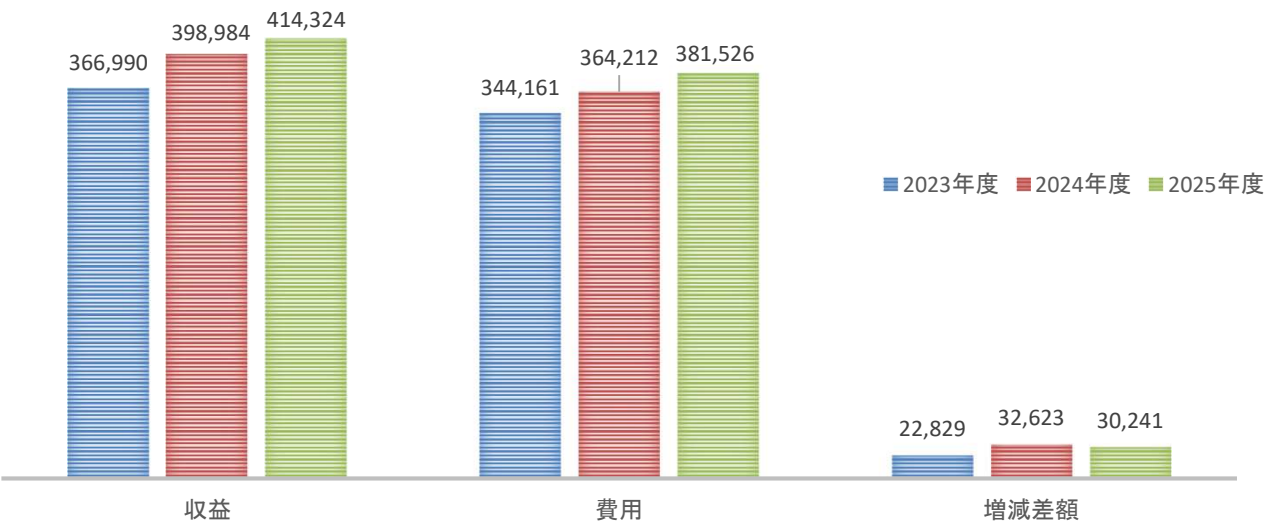
II 経営状況

法人全体

1) 当期事業活動収益について

グラフ①および表①のとおりとなった。収入も増えたが費用も増えたため、全体では増収減益となった。

【グラフ① 直近3年間の当期活動収益・費用・増減差額の推移(単位:千円)】



【表① 当期活動収益・費用・増減差額】

当期活動収益計	当期活動費用計	当期活動増減活動差額計
414,324,837円	381,526,369円	30,241,268円

2) 当期資金収支について

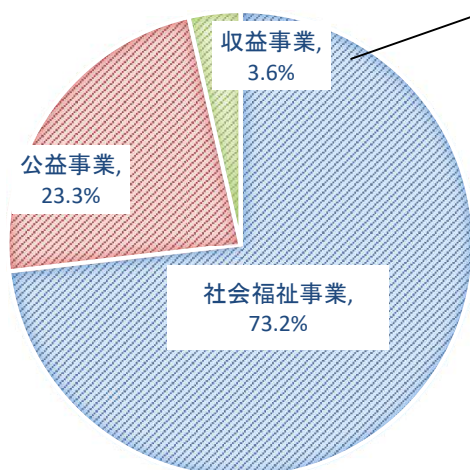
資金収支は表②のとおりとなった。

【表② 当期資金収支表(単位:円)】

事業活動収入	施設整備等収入	その他の活動収入	収入計①	資金収支差額(①-②)
413,737,987	180,000	2,155,960	416,073,947	29,705,388
事業活動支出	施設整備等支出	その他の活動支出	支出計②	当期末支払資金残高
363,654,627	17,610,381	5,103,551	386,368,559	318,213,952

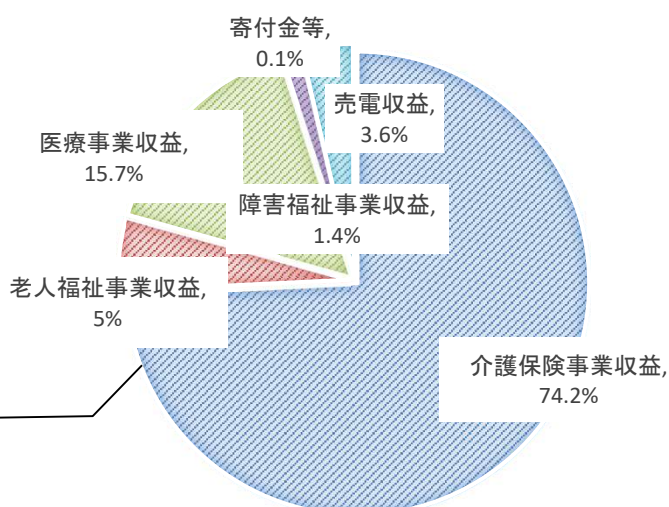
3) サービス活動収益の構成について

【グラフ② 収益に対する事業区分別の構成比率】



法人全体の収益に対する事業区分別の構成はグラフ②のとおりとなった。

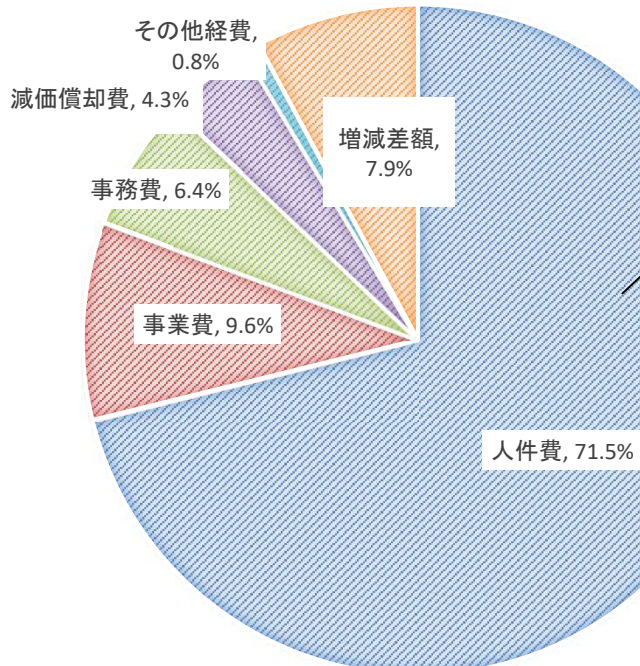
【グラフ③ 収益に対する科目別の構成比率】



科目別の構成比率はグラフ③のとおりとなった。経営の安定化を図るために、多角化・多機能化の推進に伴い始めた障害福祉事業は、前年比で伸びてきている。今後はシナジーのあるサービスの追加を図っていく。

4) サービス活動における経営指数値について

【グラフ④ 収益に対する構成比率】



サービス活動における収支差率(収益に対する増減差額の比率)は、7.9%となった(前期9.5%)。令和7年度介護事業経営実態調査の結果によると、令和6年度決算における全サービス平均の収支差率は4.8%となっているので、安定運営である。

科目別の構成比率はグラフ④のとおりとなった。前期の人件費率は69.5%。人件費率は、ここ5年間では最も高い水準となっている。外国人材採用1年目という事もあって、半年以上をトレーニング期間として余剰人員として採用したことが要因として大きい。業界全体としては、人手不足もあって、賃金水準の高騰は続いているが、人件費コントロールが事業運営の要のひとつであり、ここを間違えると経営状況が苦しくなってしまう。今後も人件費のコントロール最新の注意をはらっていきたい。

- 1) 法人全体の7割以上を占める社会福祉事業（溝辺ともの家、アンジュールともの家、ともの家この道のグループホーム3事業所と、小規模多機能ホームともの家、小規模多機能ともの家吾も紅の小規模多機能居宅介護2事業所、計画相談支援・障害児相談支援事業所Ai-ciel）の当年度の経常活動の会計は表③のとおりである。前期比で増収増益である。

【表③ 社会福祉事業 損益比較表（単位：千円）】

		溝辺	この道	アンジュール	小規模	吾も紅	Ai-ciel	合計
経常活動収益	当期	30,095	47,069	47,144	99,224	72,710	5,677	301,919
	前期	29,742	44,412	46,716	89,569	70,039	3,952	284,430
	対比	353	2,657	428	9,655	2,671	1,725	17,489
経常活動費用	当期	32,233	42,772	43,815	82,729	64,309	4,313	270,171
	前期	32,007	39,125	41,306	77,811	65,286	1,936	257,471
	対比	226	3,647	2,509	4,918	(977)	2,377	12,700
増減差額	当期	(2,138)	4,297	3,329	16,495	8,401	1,364	31,748
	前期	(2,265)	5,287	5,410	11,758	4,753	2,016	26,959
	対比	127	(990)	(2,081)	4,737	3,648	(652)	4,789

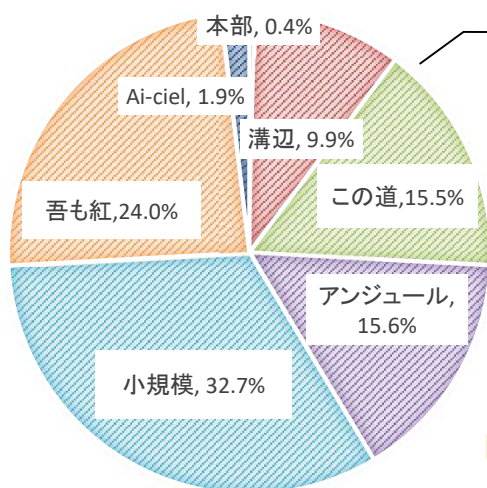
- 2) 社会福祉事業部門の資金収支は表④のとおりとなった。

【表④ 社会福祉事業 当期資金収支表(単位：円)】

事業活動収入	施設整備等収入	その他の活動収入	収入計①	資金収支差額(①-②)
303,079,469	0	9,428,700	312,508,169	23,310,183
事業活動支出	施設整備等支出	その他の活動支出	支出計②	当期末支払資金残高
279,907,501	4,540,934	4,749,551	289,197,986	243,506,279

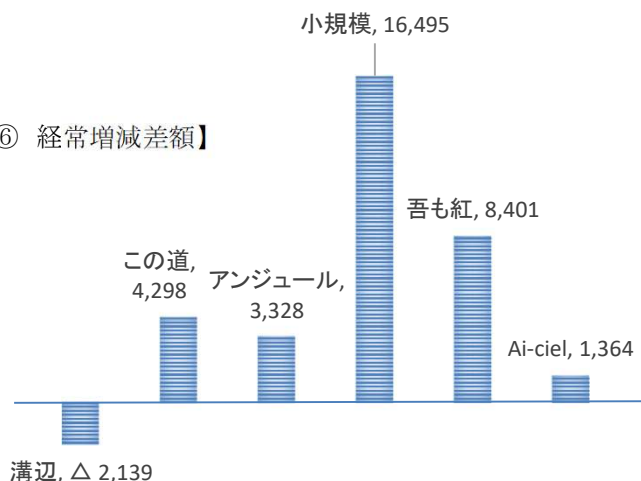
- 3) 社会福祉事業の収益等の構成について

【グラフ⑤ 経常活動収益の事業所別構成比率】



社会福祉事業の経常活動収益の構成はグラフ⑤のようになり、相談支援事業所Ai-cielが加わったが、規模が小さいため全体の比率としては、前期とほとんど変動はない。

【グラフ⑥ 経常増減差額】



6事業所の経常増減差額については、グラフ⑤のようになった。小規模多機能部門の運営が好調だったため、収益率が突出している。令和6年度に苦戦していた吾も紅だが、前期は登録定員も増加し、経営状況は回復した。令和8年度は小規模部門の安定と溝辺ともの家の経費削減が、課題である。

- 1) シニア住宅パレット(10室)と高齢者住宅(4室)、第2ともの家(5室)、訪問看護、ケアプランセンターともの当年度の経常活動の会計は、表⑤のとおりとなった。訪問看護の生産性が悪化し、公益事業部門の業績を引き下げた。

【表⑤ 公益事業 損益比較表 (単位:千円)】

		パレット	高齢者住宅	第二	訪問看護	ともの	合計
経常活動収益	当期	15,399	2,687	3,490	72,539	1,817	95,932
	前期	13,392	2,445	3,640	68,717	0	88,194
	対比	2,007	242	△ 150	3,822	1,817	7,738
経常活動費用	当期	13,753	2,635	4,084	57,433	3,542	81,447
	前期	11,473	2,067	3,991	47,565	0	65,096
	対比	2,280	568	93	9,868	3,542	16,351
経常増減差額	当期	1,646	52	△ 594	15,106	△ 1,725	14,485
	前期	1,919	378	△ 351	21,152	0	23,098
	対比	△ 273	△ 326	△ 243	△ 6,046	△ 1,725	△ 8,613

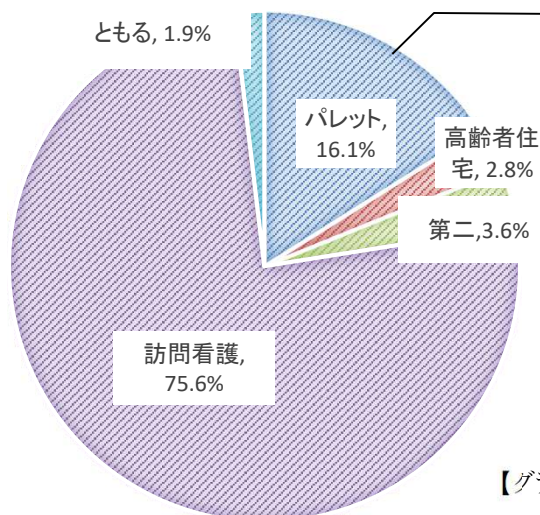
- 2) 公益事業部門の資金収支は表⑥のとおりとなった。

【表⑥ 公益事業 当期資金収支表(単位:円)】

事業活動収入	施設整備等収入	その他の活動収入	収入計①	資金収支差額(①-②)
95,931,584	180,000	782,116	96,893,700	6,048,108
事業活動支出	施設整備等支出	その他の活動支出	支出計②	当期末支払資金残高
76,790,554	5,675,443	8,379,595	90,845,592	64,037,123

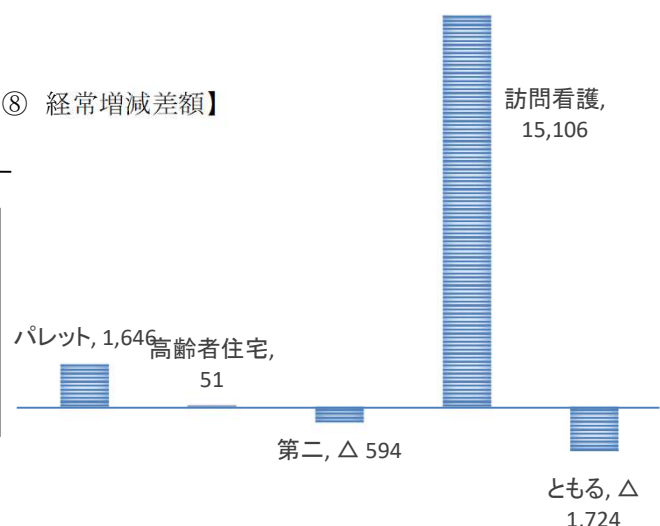
- 3) 公益事業の収益等の構成について

【グラフ⑦ 経常活動収益の事業所別構成比率】



公益事業の経常活動収益の構成はグラフ⑦のようになり、訪問看護が8割近くを占めている。既存の住宅系事業とのシナジーを発揮しているため収益的にも安定し、健康管理や緊急時対応の充実など、サービス面でも貢献しているが、競合も多く、在宅での成果は上がっていない。採用を増やしたがその分仕事が増えているわけではなく、前期と比較すると1事業所当たりの収益性は下落しており、現状維持ができるか

【グラフ⑧ 経常増減差額】



5事業所の経常増減差額については、グラフ⑧のようになった。訪問看護部門の収益率が突出している。規模の関係で、高齢者住宅と第二ともの家は、単独での黒字確保は難しいが、居住支援のニーズに対応しつつ、訪問看護や小規模多機能とのシナジーにより収益を確保することができているので、現状維持に努める。

【表⑦ 収益事業 損益比較表（単位:千円）】

- 1) 太陽光発電事業の当年度の経常活動の会計表⑦のとおりであった。発電量が伸び、前期対比で増収増益となった。

		パレット	鷹子	この道	アンジュール	合計
経常活動収益	当期	998	10,755	1,040	1,934	14,727
	前期	947	10,000	991	1,840	13,778
	対比	51	755	49	94	949
経常活動費用	当期	295	3,497	331	331	4,454
	前期	345	3,507	384	384	4,620
	対比	△ 50	△ 10	△ 53	△ 53	△ 166
経常増減差額	当期	703	7,258	709	1,603	10,273
	前期	602	6,493	607	1,456	9,158
	対比	101	765	102	147	1,115

- 2) 資金収支は表⑧のとおりとなった。法人税が発生する唯一の事業であり、パネルの借り入れ金を完済するまでの収支はマイナスとなることも予想される。今期は、発電量が好調でかつ目立った支出もなく、法人税を払ってもプラスとなった。

【表⑧ 収益事業 当期資金収支表(単位:円)】

事業活動収入	施設整備等収入	その他の活動収入	収入計①	資金収支差額(①-②)
14,726,934	0	0	14,726,934	347,097
事業活動支出	施設整備等支出	その他の活動支出	支出計②	当期末支払資金残高
6,956,572	7,394,004	29,261	14,379,837	10,670,550

Ⅲ 職員状況

- 1) 法人全体の年度末職員数と常勤換算数は、表⑨-1のとおりとなっている。

【表⑨-1 年度末職員数と常勤換算数】

	事務員	看護師	介護支援専門員	介護職員	調理員	その他職員	計
常勤	3	9	4	39	1	2	58
非常勤	0	5	0	3	0	1	9
常勤換算数	3	10	4	41.5	1	2.2	61.7

介護支援専門員は、介護職員との兼務も含む。その他の職員は、相談員、清掃員。

以下、令和7年3月末時点での非常勤を含む職員67名の状況を報告する。

- 2) 勤続年数

職員の勤続年数と離職率は、表⑨-2のようになっている。前年度は特に離職者が少なかったこともあり、3年以上のスタッフ割合が増加している。一方事業の拡大等の理由から採用数が多かったこともあり、1年未満の割合も増加している。

【表⑨-2 職員勤続年数と離職率】

	勤続年数	人数	構成割合	構成割合
			令和7年度	令和6年度
勤続年数	～1年	11	16.4%	26.8%
	1～3年	20	29.9%	31.0%
	3～5年	17	25.4%	7.0%
	5～8年	4	6.0%	9.9%
	8～10年	1	1.5%	9.9%
	10年～	14	20.9%	15.5%
離職率	正規／非正規		令和7年度	令和6年度
	正規職員		4.9%	17.2%
	非正規職員		23.1%	29.4%
	令和6年度介護労働実態調査結果報告 離職率は12.4%			

- 3) 離職率

正規、非正規職員合わせて6名の離職があり、全体では8.1%と、全国平均の12.4%を下回る水準となった。非正規社員3名のうち1名は家庭の事情、1名は高齢化によるもので、給与面や、人間関係等に起因する離職は前年度同様に少ない。職員の若年化、定着促進が順調であると言える。

4)

介護職員の保有資格状況

表⑨-3のとおりとなっている。全国平均を大きく上回っているが、前年度よりやや低下した。これは、令和7年度より特定技能外国人2名を採用したことに起因する。

【表⑨-3 介護職員の保有資格状況】

資格	ともの家		全国
	令和7年度	令和6年度	令和7年度
介護福祉士	85.7%	88.2%	60.1%

5) 給与等

当法人の介護従事者等の1人当たりの平均給与額は、表⑨-5のとおりとなった。比較値として、令和7年度介護事業実態調査(介護事業経営概況調査)結果※のデータを載せている。報酬単価の地域区分が最下級の地域にも関わらず全国平均と比較して高水準を維持しているのがわかる。

【表⑨-5 2026(令和7)年度 介護従事者等の平均給与額の状況】
(常勤換算職員 1人あたり給与費)

認知症対応型共同生活介護			
ともの家	全国平均①	全国平均②	全国平均③
368,588	355,403	332,546	332,662
小規模多機能型居宅介護			
ともの家	全国平均①	全国平均②	全国平均③
403,632	356,420	373,101	339,800
訪問看護(看護師)			
ともの家	全国平均①	全国平均②	全国平均③
522,966	467,245	482,322	443,325

※ 令和7年度介護事業実態調査(介護事業経営概況調査)結果より

1人あたり給与費・・・給与および年間賞与の合計額を12で除したものに、法定福利費及び退職給付引当金の1月あたりを加えた額

全国平均①…社会福祉法人、②…医療法人、③…営利法人

IV 各事業所利用状況(令和7年3月31日時点)

1) グループホーム利用状況

利用状況は、表⑩-1のようになった。看取りによる退去等も重なったが、平均して97%を超え、安定した入居率を保っている。いかに入居率を高く維持できるかが、運営上の課題なので、今後も、地域連携担当と連携して入居率を維持していくよう努めている

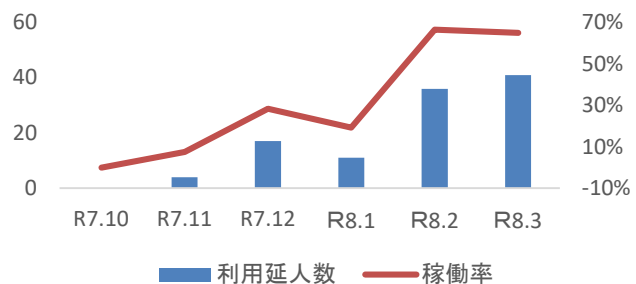
【表⑩-1 グループホーム利用状況】

	溝辺		この道		アンジュール	
	令和7年度	令和6年度	令和7年度	令和6年度	令和7年度	令和6年度
延べ利用者数	2,146	2,161	3,220	3,133	3,172	3,255
1日当り利用者数	5.88	5.92	8.82	8.58	8.69	8.92
年間入居率	97.9	98.7	98.0	95.4	96.5	99.1
平均介護度	2.9	2.9	3.9	4.0	4.2	4.1

2) 共用型デイサービス利用状況

利用状況は、グラフ⑧のようになった。10月開設のため、今回は利用推移を載せている。徐々に利用者も増え、稼働率が上がってきた。稼働率が80%程度になるよう、今後も営業活動に力を入れるとともに、サービス内容の充実を図っていく。

【グラフ⑨ 共用デイ利用状況の推移】



3) 小規模多機能利用状況

利用状況と登録率は、表⑩-3のようになった。利用状況は若干増加した。昨年度に引き続き地域連携担当が他機関や地域からの相談を受ける体制が機能している。吾も紅については、宿泊室が少なく、宿泊ニーズへの対応に不十分なことが、定員増加の妨げになっている。今後は増床・改築を検討していきたい。

【表⑩-3 小規模多機能利用状況】

	小規模多機能ホーム		ともの家吾も紅	
	令和7年度	令和6年度	令和7年度	令和6年度
通い延人数	4,489	4,702	4,058	4,749
宿泊延人数	2,556	2,706	2,500	2,308
訪問延人数	10,148	10,115	10,242	8,256
実人数月平均	27.4	24.9	17.5	17.9
平均介護度	2.8	2.7	2.5	2.5

4) 相談支援事業利用状況

計画相談支援および障害児相談支援の利用状況は表⑩-4のようになった。登録者数は平均して130人程度で、ひとりの相談支援員でおこなう事業所としては、これ以上ない業績である。今後はこれまで以上に他サービスとのシナジーの深化を図りたい

【表⑩-4 相談支援事業所利用状況】

	令和7年度	令和6年度
計画相談支援	376	247
障害児相談支援	24	21

5) 訪問看護利用状況

利用状況は、表⑩-5のようになった。

1人当たりの訪問回数は今期も月100件を超え、好調であった。松山市の公表によると、訪問看護事所は毎月開設のペースで増加傾向だったが、市内では飽和状態にあり、令和7年度には、廃止する事業所も散見されるようになってきた。今後はさらに淘汰が進むことが予想される。人件費率が高く採用コストも高い事業なので、現状維持のためにも、介護保険利用者を増やしていきたい。

【表⑩-5 訪問看護ステーションともの家 延べ訪問回数】

		令和7年度	令和6年度
介護保険	延べ回数	1,248	1,045
	月平均回数	104	87
医療保険	延べ回数	7,894	7,668
	月平均回数	657.8	639
常勤換算看護職員数		7.4	6.3
職員1人当たり訪問回数(月)		102.9	115.2

6) その他公益事業の利用状況

入居率は表⑩-6のとおりとなった。

退去はあったが、地域連携室がすぐに空室を埋めるなど協力が機能したおかげで、全体的に、入居率が上がった。

表⑩-6 公益事業入居状況

	入居率		
	令和7年度	令和6年度	前期比
シニア住宅パレット	99.5%	90.0%	9.5%
高齢者住宅	99.0%	87.5%	11.5%
第二ともの家	100.0%	96.7%	3.3%

V その他

①メディカサイトにおける特集記事の掲載

地元密着の総合メディア企業である株式会社メディカサイトに、カンボジア特定技能生を迎え入れたことを特集記事として掲載された。県内においても、介護現場では着々と外国人材の採用が進んでおり、今後ますますその必要性は高まってくる。地元密着型のメディア企業としては、知名度が高いメディカサイトに特集を組んでもらったことで、当法人のイメージアップが図られるとともに、業界全体における人手不足という課題の解決に向けて、当法人の取組みがその一助になれば幸いである。

②小澤竹俊先生を招いての講演会開催

社会福祉に関する啓発活動の一環として、エンドオブライフ・ケア愛媛とともに、エンドオブライフ・ケア協会の設立者であり、めぐみ在宅クリニック院長の小澤竹俊先生を講師に招いて業界関係者および地域住民を対象とした講演会を主宰した。100名を超える参加で、中学生から90歳を超える方まで、幅広い年代、業種の方が参加した。職員研修も兼ねての主宰だったが、「ユニバーサル・ホスピスマインド」という、手法に留まらない広義の福祉的思想・考え方について、深く学ぶ機会となった。